

～育てよう 楽しもう 花作り～ 「種まきから 始める花壇苗栽培」



もくじ

| | |
|------------------------|---|
| 1 花壇苗栽培の流れを確認しよう | 1 |
| 2 栽培の計画を立てよう | 2 |
| 3 種まきをしよう | 3 |
| 4 成長した苗を鉢上げしよう | 5 |
| 5 鉢上げた苗を育てよう | 6 |
| 6 花壇苗を定植しよう | 6 |

名前

1 花壇苗栽培の流れを確認しよう

ガーデニングをする時、どのような花壇にしようか迷いながら花を選ぶのはとても楽しいものです。

少し難易度は上がりますが、種から育てていくことで花への愛着がより深まることはいうまでもありません。

はじめに、花壇苗栽培の流れと大まかなチェックポイントを確認していきましょう！



1) 栽培の計画

- 栽培する花は何にするか？
→花を楽しみたい時期から逆算して花の種類を決めます。
- どのぐらい種をまけばよいか？
→必要本数から逆算して、種をまく量を決めます。
- いつ種をまけばよいか？
→発芽に適した環境条件から時期を決めます。



2) 種まき

- どのようにしたら発芽がそうなのか？
→発芽条件を整えることで、一斉に発芽させます。
- 種まきに必要なものは？
→種のまき方を決めて、セルトレイ[※]や用土など必要なものを準備します。
- 発芽後の苗を順調に生育させるには？
→適切な管理(水・肥料・光)で丈夫な苗に育てます。
[※]セルトレイとは…小型の育苗鉢が連結したパネル状のポットのこと。



3) 鉢上げ

- どのように鉢上げ[※]するのか？
→ちょうどよい時期に鉢上げすることで、順調に生育させます。
[※]鉢上げとは…
種まき用のセルトレイから、生長した苗を鉢に移植すること。



4) 花壇苗の育苗

- どのようにポット苗を育てるのか？
→適切な管理(かん水[※]や施肥[※]など)で、丈夫な苗に育てます。
[※]かん水とは…水やりのこと。 [※]施肥とは…肥料を与えること。

5) 花壇苗の定植

- いつプランターや花壇に植え付けるのか？
→老化していない苗を植え付けることで、その後の生育も順調になります。

2 栽培の計画を立てよう

1) 栽培する花の種類・種まきの時期は？

花を楽しみたい時期が決まれば、花の種類や種まきの時期は大まかに決まります。

| 花壇で楽しむ時期 | 夏から秋 | 冬から春 |
|----------|--------------------------|-------------------------|
| 草花の種類 | 春まき一年草 | 秋まき一年草 |
| 草花の例 | サルビア、マリーゴールド ペチュニア など | パンジー、 ビオラ、デージー など |
| 種まき適期 | ソメイヨシノが 葉桜になる頃から | お彼岸の頃 (9月の秋分の日前後) から |

2) 準備する種の量（粒数）は？

苗の必要本数を計算して、その3～4割程度多めに種を準備しよう！

○プランターの場合
→4～5株の苗が必要



○花壇の場合
→20～30cm間隔で植え付け



3) 種を準備したら、花についてチェック！

種子袋やカタログには、花の栽培に役立つ情報がたくさん書かれています。

栽培記録簿に植物の基本情報や栽培のポイントを記録しましょう！

要チェック項目

- 発芽までの日数
- 発芽適温
- 覆土※の有無
- 生育適温
- 栽培のポイント など

購入した種は、種まきまで冷蔵庫で保存しましょう！

→保存状態が悪いと発芽率が低下します。

※覆土(ふくど)とは…まいた種の上に土をかぶせること。

種子袋には
情報が満載

パンジー Pansy

学名: *Viola x wittrockiana* 原産地: 北ヨーロッパ
科名: スミレ科 和名: 三色スミレ

| | | | | | | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|----|----|
| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 一般地域 | | | | | | | | | | 種まき | | |

発芽温度: 20℃前後 発芽日数: 10～15日

生育が良く花つきが抜群。春まで咲き続けます。
花壇やコンテナにおすすめです

| | |
|--|---|
| <p>種まき</p> <p style="font-size: x-small;">温度が下がる8月下旬以降にまきます。 清潔な種まき用土を入れた苗床に種をまき薄く土をかけます。</p> | <p>育て方</p> <p style="font-size: x-small;">本葉が2～3枚になったら、苗をポットに移植して日当たりと風通しの良い場所に置いて育てます。ポットに根が回ったら花壇やコンテナに植え付けます。</p> |
|--|---|

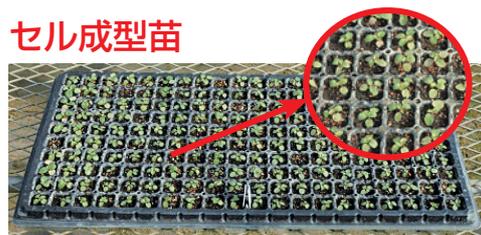
3 種まきをしよう

栽培の第一歩は、発芽をそろえることです。

植物の発芽について知り、均一な作業を心掛けることが重要です。
ここではセル成型苗※の育苗方法を紹介します。

※セルトレイを使って栽培された苗のこと。
移植時の植え傷みが少なく、移植後の初期生育が旺盛になります。

セル成型苗



1) 種まきを成功させるコツ

植物の発芽には **水**、**酸素**、**温度** の **3つ** が必要です。

- Point 1** 清潔な用土を使う！ →病原菌を持ち込まない。
- Point 2** 適期に種まきする！ →過度な高温や低温では発芽しません。
- Point 3** 種に土をかけすぎない！ →種の種類により覆土の量が違います。
- Point 4** 乾燥させない！ →発芽するまでは絶対乾かしません。

2) 種まきの準備をしよう！

- セルトレイ(200穴) 種まき用土 バーミキュライト(覆土用) 種
- 竹串 or 爪楊枝 新聞紙 霧吹き バット(セルトレイが入る大きさ)

3) 種まきの手順

ここでは、パンジーの種まきを例に説明していきます。

①種まき用土に水をなじませます。

用土を軽く握って固まる程度の水分がベスト
種まき用土はピートモス※を主原料としたものが多く、じょうろで水をかけても吸水しにくい性質があるため。

※ピートモスとは…ミズゴケが湿地で堆積、変質したもので、用土の材料として広く用いられています。



②セルトレイに種まき用土をつめる。

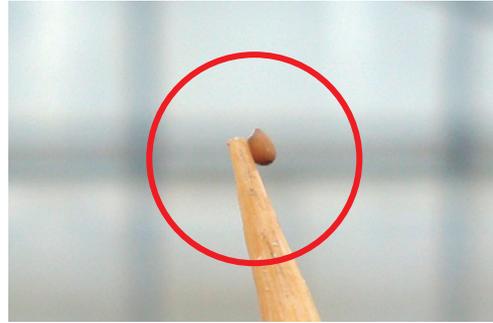
均一につめることが重要です。特に外側のセルには十分用土をつめるようにしましょう。

セルトレイは、用土をつめる前に必要な分だけ切り分けておくと無駄がありません。



③セルに種をまいていく。

草花の種は野菜と比べると小さいものが多いです。まきにくい場合は、ぬらした竹串の先端に種をくっつけてまきましょう。種の保存状態が良ければ、発芽率は高いので1個のセルに1粒ずつまいていきます。



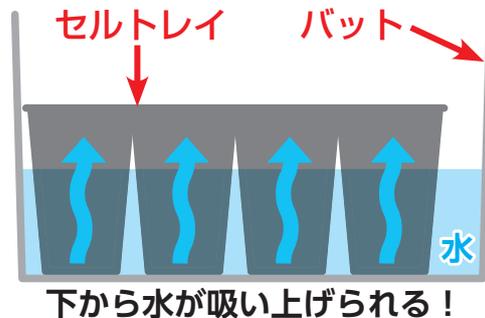
④バーミキュライトで覆土する。

覆土が厚すぎると発芽がそろいません。種がかくれる程度の薄い覆土を心掛けましょう。
※バーミキュライトとは…鉱物(ひる石)を高熱で加工したもので、保水性・通気性がよい無菌の用土。



⑤底面給水で用土に水を含ませる。

水を張ったバットの中にセルトレイを浸けます。じょうろなどで上から水をかけると、種が流れてしまいます。セルトレイへのかん水は、発芽がそろうまで底面給水をおすすめします。



⑥新聞紙をかぶせ、霧吹きで濡らす。

新聞紙で覆っておくことは、乾燥を防ぐ上でもとても効果的です。ただし、発芽し始めたらすぐに取り除きましょう。徒長※して軟弱な苗になってしまいます。
※徒長とは…日照不足などから、植物の茎や枝が間延びすること。



4) 種まき後の管理

発芽するまでは

- 適切な場所に置く！
→直射日光や雨のあたるところは厳禁。
- 水を切らさない！
→新聞紙を霧吹きで濡らして乾燥を防ぎ、底面給水する。

発芽してからは

- 外部の環境に慣らす！
→徐々にかん水量を控える。
→徐々に光に慣らす。
- 薄い液肥でかん水！
→『乾いたらかん水する』が基本。
→3回に1回薄い液肥をかける。

4 成長した苗を鉢上げしよう

セルトレイの中で根がまわりはじめたら、ポリポットに移植します。
ここでは、直径9cmのポリポットに苗を移植する方法を紹介します。

1) 鉢上げの準備

□ セル成型苗

→本葉3～4枚程度が目安。

□ フルーツ用のフォーク(or 箸)

→割りばしの先を細く削ったもので代用できます。

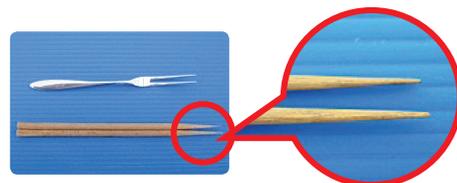
□ ポリポット(9cm)

→軽くてやわらかいので、苗作りに最適です。

□ 用土(市販の培養土を使うと便利です)

→生産農家では赤土や腐葉土、ピートモスなどをブレンドし、
蒸気消毒して利用しています。

(配合例：赤玉土(40%) 腐葉土(20%) 完熟たい肥(20%) ピートモス(20%))



2) 鉢上げの手順

① ポリポットに用土をつめる。

かん水したときにウォータースペース※がとれる
よう、軽くつめるとよい。

※ウォータースペースとは…かん水したときに水がたまるス
ペース。



② フォークでセル成型苗を抜き取り、ポリポットに移植する。

あらかじめたっぷりかん水しておくことで、セルトレイから苗が抜き取りやすくなります。

○深すぎたり浅すぎたりしないように ○生育が悪いものは移植しない。



③ 鉢上げ後は十分にかん水する。

5 鉢上げした苗を育てよう

ここでは、鉢上げした苗を丈夫に育てていくためのチェックポイントを紹介します。

1) かん水は「乾いたらたっぷり」が基本です。

用土が常に濡れている状態では、根の成長が悪くなります。
用土の表面が乾くまでかん水を控えることが大切です。



緩効性肥料
(植物から離して置く)

2) 肥料の与えすぎに注意しましょう。

根がついて生長をはじめたら緩効性肥料を1ポットあたり0.5g
与えます(鉢上げ後10日頃が目安)。
その後は、約1ヶ月おきに同量の緩効性肥料を与えます。

3) 光をあて、風通しを良くしましょう。

隣の葉と触れ合うようになってきたら、ポットの間隔を広げます(スペーシング)。



病害虫の被害を防ぐために…



生産現場では薬剤散布で病害虫を予防していきます。

しかし、少量の栽培では、適切な管理をしていくことである程度病害虫を防ぐことができます。
スペーシングで日当たり・風通しを良くすることも効果的です。

6 花壇苗を定植しよう！

ここまで育ててきた花壇苗は、最終的に花壇やプランターに植え付けるためのものです。
ポットの中で根がまわりすぎて老化する前に、植え付けましょう！

定植適期



老化した苗



〈作成協力〉千葉県立鶴舞桜が丘高等学校

花壇苗栽培観察記録

○草花の基本情報について

| | | | |
|-----|--|-------|--|
| 植物名 | | 種苗会社名 | |
| 品種名 | | 園芸分類 | |
| 学名 | | 科名 | |
| 和名 | | 原産地 | |

○発芽・生育条件について

| | | | |
|---------|--|------|--|
| 発芽までの日数 | | 発芽適温 | |
| 覆土の方法 | | 生育適温 | |

○栽培のポイント

| |
|--|
| |
|--|

○管理・作業記録

| 日付 | 作業 | 備考 |
|----|----|----|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |